



写真特集★四万十街道ひなまつり

街並み彩るひな人形に込めた思い



かつてのにぎわい復活へ

「四万十街道ひなまつり」(明星ヶ丘いきいき会主催)は3月3日から12日までの10日間、日吉地区下鍵山を中心に行われました。

このイベントは元々、高知県の津野町、榑原町、中土佐町、四万十町、四万十市で4年前から行われているもの。昨年、NPO法人高知文化財研究所の溝渕博彦代表から「同じ四万十川流域に暮らす者同士、合同でイベントを開催しないか」との誘いがあり本町でも開催することになりました。その誘いを受けて立ち上がったのが日吉地区の「明星ヶ丘いきいき会」。ここ数年、地域の疲弊を危惧していた同会の会員らは「地域を盛り上げたい」「昔のような活気を取り戻したい」との思いで、開催を決意しました。

つながる地域

意気込んで始動したものの、初めての試みに戸惑いを隠せなかった会員。とにかく動きました。高知県へ視察に行き協議を重ねました。家に保管しているひな人形はないか、人形や飾りを自宅や店先に展示してくれないかと、足を棒

にして、地域にお願いして回りました。また、石や瓦への絵付けなど、夜を徹して作業を行いました。会員らは、「何が大変だったかわからないくらい必死でした」と口をそろえます。

イベント成功に向けて奔走したのは会員だけではありませんでした。同地区の▼2カ月前から座敷雛の盆栽の準備をした日吉盆栽会▼自分たちが作ったひな人形を展示してイベントの成功に一役買ったみどり保育所園児▼石などにひな人形の絵を書く作業を手伝った絵画クラブ▼飾りつけなどを手伝った一希を起こす会▼所有するひな人形の貸し出しや、自宅や店舗に飾ることを快諾し、自らその飾りつけをした地元住民など。さまざまな人が、その趣旨に賛同しイベントに携わったのです。

そして、迎えた開催初日。

沿道には石、瓦や野菜に描かれたひな人形、個人宅や店先には段飾りのひな人形や屋敷に入ったひな人形など、ありとあらゆるひな人形が街並みを彩り、幕を開けたひなまつり。大型バスで訪れた観光客や親子連れなど、その数は会員らの想像をはるかに上回るものでした。いきいき会と